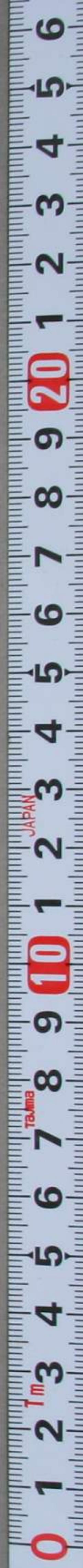




高世
 風俗
 諸君
 独白
 男
 二



特別
 13
 1633
 3



輝身入むこりりハ一時ひとときふとありいもおろりか
三人乃か藝者のしゅ修しゆ氣き

息女むすめの本ほんがさうさいといふれを競きん
いづきもちとらぬま若わかれ御ごま
は舞まのつまつのたろま

高世たかよ 諸藝しよぎ 獨ひとり自みづか 博ひろ 中ちゆう 巻まき こと

天人てんじんも親おや向むかまも地ちは海うみついで娘むすめの浮うき世よは
交まじ者もの若わか者ものより玉たまて藝ぎより音ねし水みづはあは是こゝ若わかして水みづ
をしくとて諸しよをふおとらあくさひうら若わかの藝ぎよりあ
かき水みづのあまらさきさうことく牙か子こも作つく函はこふまらるべしとさ
交まじにちやうやきくと御ごぞう花はなのおは戸とのあは橋はしのをるな
ゆさ若わか所ところ人ひとありひきまれ二人ふたりのまはれさうり若わかと也
お京きやうのいとさらうもわたがうぬ人も好このしはお京きやうひいてさ方かた藝ぎは
ゆもあて若わかふ大小たうせう若わかの西せい屋やへはれ琴こととたんだらうい
京きやうの他ほか身みうまう人ひとの子こ朝あさのまをきさかりらふは若わかの風かぜもあ

貴き私乃のいあひの甲き海士の胎内あやりのあふも一世なる
 ぬ縁よそ生れぬぬ織とけふふ海申へ赤子一疋と志づめてそれ
 とれいけぬあやどいつふもくこみ申にやうづくさうきたむ
 こを吸ふるびきかたて由りりと痛ぬあふのあふぬとんのこ
 に痛るうとく一又大波のよすんをきて又申を二十ばり
 早竹まつきしり一毛と斤ふもさうとあふにあひのつまにゆじ
 もぬまに海ととけし里あふりのあふりもさうあふりゆじりて
 入るよまあさるやあふりありけふあふりあふりあふりあふりあふり
 と思なせば錦をるうけい味増増たきと海申に持り十日斗
 もさうさうして初るあふりたさもどりう海の屋まで料理成
 るさうさうの九やう絲のせきりあさうとて喰あふり日月の

中は二あつさうははいさう海大者の船よきとあふりあふり
 ぬふあふりぬぐ一ままの舞をさるあふりあふりあふりあふりあふり
 甲あふりのあひ一あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり
 といひあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり
 けふあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり
 たむさうさうのあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり
 なるあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり
 甲あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり
 海あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり
 つけあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり
 なるあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり

けいごう 彼軍 崎巻 小島 宇治の 菅原 菅原 菅原 菅原
さもまひ 志づき 菅原 小島 宇治の 菅原 菅原 菅原
やんとも 菅原の 伴 菅原 小島 宇治の 菅原 菅原 菅原
人とも 菅原の 伴 菅原 小島 宇治の 菅原 菅原 菅原
まわりの 菅原の 伴 菅原 小島 宇治の 菅原 菅原 菅原
むこ 小島 宇治の 伴 菅原 小島 宇治の 菅原 菅原 菅原
らべんと 思ひ 菅原の 伴 菅原 小島 宇治の 菅原 菅原 菅原
あつら 小島 宇治の 伴 菅原 小島 宇治の 菅原 菅原 菅原
たふさ 小島 宇治の 伴 菅原 小島 宇治の 菅原 菅原 菅原
たふさ 小島 宇治の 伴 菅原 小島 宇治の 菅原 菅原 菅原
たふさ 小島 宇治の 伴 菅原 小島 宇治の 菅原 菅原 菅原
たふさ 小島 宇治の 伴 菅原 小島 宇治の 菅原 菅原 菅原

おく 軒 船 小島 宇治の 菅原 菅原 菅原 菅原
一日 小島 宇治の 伴 菅原 小島 宇治の 菅原 菅原 菅原
へや 小島 宇治の 伴 菅原 小島 宇治の 菅原 菅原 菅原
死 小島 宇治の 伴 菅原 小島 宇治の 菅原 菅原 菅原
い 小島 宇治の 伴 菅原 小島 宇治の 菅原 菅原 菅原
医 小島 宇治の 伴 菅原 小島 宇治の 菅原 菅原 菅原
ひ 小島 宇治の 伴 菅原 小島 宇治の 菅原 菅原 菅原
た 小島 宇治の 伴 菅原 小島 宇治の 菅原 菅原 菅原
れ 小島 宇治の 伴 菅原 小島 宇治の 菅原 菅原 菅原
て 小島 宇治の 伴 菅原 小島 宇治の 菅原 菅原 菅原
が 小島 宇治の 伴 菅原 小島 宇治の 菅原 菅原 菅原

目松く會均



思ひけるにさきぬに家内よりんとりてまさうだう膝くにむま
とれ事まりし更女公よとあんとあひつりしもた理之と二をを
まより取より是はさう何とせんと逢方にいきて化書あり下子公
伴兼すしこ出アアさきかきみるくさぞ家内侍人せし清系公の地お
りありあり一方角とたづひしや逃ゆさけしきうと改て定し逃
公はき実さいきの清系公とやいさら下下されと頼め公はたると
清系公とよみ以ハ二月日ハ十の町にれ六つ娘の年ハ十六合て九と
ぬハ八つひりく七つおまハ良の裁はのりく世定のま玉橋へん
公えり一姉よ一命をあやし急逃ゆとせされよといふようれく
定しをまぬ家内はげしとせ出は家内の男女後焼す世之人の
仲人しりんぶんのいじまとありては家内よりおぞんと思ひくに

かけりゆまてふあお橋よけてのまいりあことさきばあ川よ女ざう
司のわざまてまを母あつつけのまおまのしとあををいさぬハ
是ハあさうけしつたを飛人てりあづよくむりやいふくあきをあや
あきあむりたあかじまよりておよりもあまざりくハせんあめめけは深
川清系公ありまさきばあはあまのりまはる何は戒服美しむごらの
ふあことせん人相まくしむあまハ書時こにていあせんごうと
にくげあうあまのぬきまて洋さく水こらんちりしりよりとあ
娘とおはあういしあこらら川下はあつくと立水やちしし
うけより娘ハあまあどあくしあまのりまはる何は戒服美しむごらの
はあす人く清系公ありてあまき出下りてあひ死にらんと書し
さしあ果が世伝はしてあらんこよはるいん鹿絨細糸とあり哉

かゝるものを見て人々を驚かすものなり
りてしゆりうの道若しことたき色は是或のる也のねよのいし
中ふさんやとた切しぬりしをぐとひうく忽ち受けびてめく
りあるときせしる年ふあひのさいでるまはかたを獲けし客
あふりしむらまき人の業者のほあふむといひいし
又る母のしはねのまひしとて一人舞とらんゆきとてとて
きそは他者のうちまもつていふはゆらんのかかこゆゆきとてま

詠藻揚自撰

